

発行 一般財団法人 田澤記念館
住所 佐賀県鹿島市大字高津原434番地
発行責任者 平野重徳・田中勉
発行所 鹿島印刷株式会社
発行日 2014年6月20日

第24期「少年クラブ」結成式

～新緑に囲まれ～

5月11日(日)、24年目を迎えた「田澤少年クラブ」の結成式が開催された。

本年度からマイクロバス定員制限のため、館外活動上クラブ員を20人限定。小学2年生から中学1年生までのクラブ員が保護者と共に参加した。田澤先生の母校である鹿島小学校6年生の満上聖恋さんが、代表して3つの誓いの言葉を読み上げた。20人が「一事貫行」を発表。平野名誉会長から「感謝・友愛・自主的行動」など、田澤精神の根幹をなす内容の講話があった。

26年度は班活動を中心に3つの班をつくって活動を活発化させ、クラブ員のいっそうの友愛協力を図ることとした。

～田澤先生に学ぶ～

田澤精神を身につけるための、第1回目のいわゆる「田澤学習」を6月8日に行った。田澤先生の数々のエピソードや業績の中から、熊本第5高等学校時代に炊事担当の時、寄宿舍での食費が乏しくなった。先生は持ち前のアイデアを生かし、「かつて先輩たちがどのような食事をしてきたかを体験してみよう」と提案した。約10日余りであったが、学生たちを驚かせたのは、一汁一菜と小さな魚一尾というものであった。先生は説得力があり信頼も厚かったため、だれひとり文句を言わなかったという。少年クラブ員たちは、当時の高校生にとって、物足りなかつただろうと感想を発表した。



田澤学習・田澤食体験

うれしい来館者 増加の傾向に

日本経済新聞社が取材

日本経済新聞に「らいふプラス」の欄がある。2月12日に報道された記事は記者が鹿島市を訪れ取材したもの。田澤記念館にも立ち寄り、約2時間の取材を受けた。紙面の都合で、短いながらも田澤先生の偉大な業績について分かりやすい紹介がなされ、啓発の大きな力となったのは嬉しい事であった。



左から2人目が記者

埼玉県秩父市から井上夫妻

秩父市にある「今宮神社」の総代井上貞雄氏が奥さん同伴で来館。井上氏は埼玉県深谷市『渋沢栄一』について詳しく、たどっていけば「田澤先生」に行き着き、生家跡地周辺の風を感じたいと見えたものである。



中央2人が井上夫妻

地元に輝く(株)宮園電工

～田澤精神啓発に浄財支援～

地元鹿島で長い歴史をもつ(株)宮園電工は、単なる電気関係商品の販売だけでなく、CA-TV受像設置普及などにも積極的に取り組んでいる。

6月4日、(株)宮園電工、花島光喜社長と森田芳則専務が田澤記念館を訪れ、田澤義鋪先生の「道の国日本の完成」を基本にした精神の啓発に役立ててほしいと100万円の寄附をいただいた。田澤生誕130年記念大会を来年度にひかえ、まさに天からの恵みであった。平野重徳会長が感謝状を贈りありがたく拝受した。



森田専務、花島社長、平野会長、田中理事長

平成26年度

第22期 ユースカレッジ開講



18人の若者が1年間の研修へ

第22期「田澤ユースカレッジ」の開講式が木々の葉光る6月6日に開かれた。1年間の研修を受けるのは6団体の青年。仲間と共に、幅広い視野で物事を見る能力を養い、多くの知識と教養が高まることを期待している。午前中の外部講師陣も各界で活躍の方々をお招きする。

代表の鹿島市役所勤務の岡秀和くんは、研修を受ける決意を力強く宣誓した。派遣された参加団体は下記のとおり。

決意表明

研修生代表 鹿島市役所 岡 秀和

「平成26年度第22期ユースカレッジ」開講式に参加できることを嬉しく思います。

今日集まった研修生は、今年の4月から新社会人となった者、すでに社会人としての経験を積んだ人など様々です。中には、鹿島以外で生活していた人もいるでしょうが、これからは鹿島を拠点として活動していく仲間となります。

いま鹿島市において、少子高齢化、環境問題、医療問題、経済問題など課題が山積みです。更に近い将来に多数の自治体が消滅する可能性があるという衝撃的な統計が出たところでもあります。私たちはまさに予測ができない社会を生き抜かなければなりません。こういった時期に田澤先生の精神に触れ、学ぶことのできる意義を考え、まず一人の人間として生きるべき礎にしたいと思います。また志を持って向上すると同時に、一緒に研修を受ける仲間との交流を深め、今後さらに重要性の高まる結束力や協力する能力を培い、これからの活動に活かしていきます。

最後に、平野名誉会長様、田中理事長様、鹿島市教育委員会をはじめ、田澤記念館のスタッフの皆様がこのような機会を設けていただいたことを心より感謝し、決意表明と致します。

参加団体 鹿島市役所、東亜工機(株)、祐徳薬品工業(株)、鹿島印刷(株)、鹿島機械工業(株)、森鉄工(株)

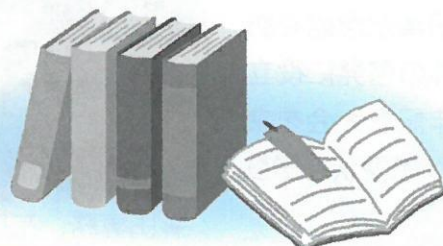
熊本一規(明治大学教授) 図書贈呈

～儒学者『谷口藍田』再刊記念に～

明治大学教授で谷口藍田の研究者である熊本一規教授が昨年3月に記念館を訪れ鹿島市と深い関わりのある儒学者「谷口藍田」の話を熱く語られた。

「近いうちに再刊しますから送ります」と約束されたが、間もなく再刊「谷口藍田」の図書が届いた。冒頭に「再刊に寄せて」を執筆。

谷口藍田は有田町の出身。天保11年(1840)に日田市にある広瀬淡窓の「咸宜園」に入門。儒学を学んだ。1851年には郷里の有田へ帰り塾を開き多くの若者たちが学んだ。明治4年(1872)に鹿島からの要請により鹿島義塾を設けた。遠く長崎や平戸唐津からもやって来た。鹿島高等学校近くの跡地には記念碑がある。田澤記念館の重要資料として活用したい。



子育て支援 『お母さんの料理教室』

田澤記念館では毎月1回、夜間の料理教室が長く続けられているが、あらたに昼間に行おうと参加者を呼びかけている。子育て中で料理の勉強が出来ない母親のために、子供連れで参加できる教室にしたいと、指導者である調理・栄養士の迎りつ子さんの提案によるもの。

6月13日第1回を開講した。



ご寄付
ありがとうございます

山下義則理事 様
(株)宮園電工 様